

## 越山若水

2021.3.26

聖火リレーが1936年のベルリン大会で始まったことはよく知られる。古代と今とをオリンピックの火でつなぐアイデアをナチスが宣伝に使った。「軍事偵察を兼ね

ていた」説も根強い▼では戦後初の夏季五輪だった48年ロンドン大会はどうだったか。聖火リレーはナチスのイメージが強いとして、廃止を訴える議論が当然のように起きた。一方で、リレーが醸し出す神聖な雰囲気待ち望む人も多かった。そこで聖火の出発式にある仕掛けが施された▼第1走者のギリシャ軍人が聖火の前に進み出て、まず足元に銃を置いた。次いで軍服を脱ぎ捨ててランニングウェア姿になりトーチに火を付けた。この演出により平和の象徴だと認知され、長く受け継がれてきたという(「オリンピックは平和の祭典」舛本直文著)▼福島県聖火リレー出発式をテレビ中継で見た。式典に登場したお笑いコンビ・サンドウィッチマンのお二人は、東日本大震災の直後から支援活動を尽くす。「被災地のきれいな所も、まだ立ち入れない所があるのも見てほしい。世界に感謝を伝えたい」と語っていた▼そして第2走者の地元高校生は「全世界の人たちが難局を乗り越えるため助け合わないと」との願いを胸に走った。歴史をつないできた聖火が人々の思いを担い列島を巡っていく。コロナ禍に遮られず国立競技場に無事到着することを祈りたい。